



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016 年 7 月 28 日

氏名： 山本正伸

所属機関・職名： 北海道大学・准教授

IODP 研究航海番号 および航海名	Expedition 363 Western Pacific Warm Pool
乗船時の役割	Geochemist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2016 年 7 月 15 日 ~ 2016 年 7 月 16 日
実施場所	金沢大学理工研究域
実施による成果と今後の計画 7 月 15 日(金)から 16 日(土)の二日間にわたって、金沢大学理工研究域において IODP Exp. 363 WPWP のプレクルーズトレーニングが行われた。参加者は、乗船研究者でホストの佐川拓也氏(金沢大)、熊谷祐穂氏(東北大)、山本、陸上研究者の山崎俊嗣氏(東大)の 4 名であった。 ミーティングでは、自己紹介、乗船研究者の役割と義務、船内生活、コアフロー、手続き等の確認、Exp.363 クルーズの概要、目的確認、海外からの乗船者情報、各自の研究目的を話し合った。さらに、共同研究の可能性を話し合った。 今回、金沢に集まり、各自の乗船目的を理解しあったことは、今後の準備にむけて非常に有益であった。	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org)でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016 年 7 月 19 日

氏名：佐川 拓也

所属機関・職名：金沢大学・助教

IODP 研究航海番号 および航海名	Expedition 363 Western Pacific Warm Pool
乗船時の役割	Sedimentologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2016 年 7 月 15 日 ~ 2016 年 7 月 16 日
実施場所	金沢大学理工研究域
実施による成果と今後の計画 <p>7月15日(金)から16日(土)の二日間にわたって、金沢大学理工研究域において IODP Exp. 363 WPWP のプレクルーズトレーニングを行った。参加者は、乗船研究者の山本正伸氏(北大)、熊谷祐穂氏(東北大)、佐川のほか、陸上研究者の山崎俊嗣氏(東大)の4名であった。ミーティング内容は以下の通りである。</p> <p>15日(金)</p> <ul style="list-style-type: none">・自己紹介・IODP 乗船について。研究者の役割と義務、船内生活、コアフロー、手続き等の確認 ～休憩～・Exp.363 クルーズの概要、目的確認、海外からの乗船者情報・各自の研究目的、ターゲットサイトの紹介(山本、佐川) <p>16日(土)</p> <ul style="list-style-type: none">・各自の研究目的、ターゲットサイトの紹介(山崎、熊谷) ～休憩～・フリーディスカッション、共同研究・研究費獲得 <p>ミーティング前半では IODP 全体に関する紹介や Joides Resolution 号でのコアフローについて確認した。2013 年から始まった IODP の新フェーズでこれまでと変更があった点などの確認もできた。後半では Expedition 363 に関する情報を Scientific Prospectus や IODP ウェブページを使って確認した。さらに、各自が提出したサンプルリクエストに基づいて研究目的や分析予定項目などについても紹介し合い、共同研究の可能性を議論することができた。この会合で、今から乗船までの二ヶ月半で準備すべき事が明確になった。</p> <p>今回、J-DESC から旅費支援をいただいたことで乗船関係者が一同に集まって情報共有できたことは非常に有意義であった。心より感謝いたします。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016 年 7 月 19 日

氏名：熊谷 祐穂

所属機関・職名：東北大学大学院理学研究科

IODP 研究航海番号 および航海名	Expedition 363 Western Pacific Warm Pool
乗船時の役割	Paleomagnetist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2016 年 7 月 15 日 ~ 2016 年 7 月 16 日
実施場所	金沢大学 (石川県金沢市)
実施による成果と今後の計画 <p>今回のプレクルーズトレーニングでは、Expedition 363 航海へ乗船する研究者 3 名と、陸上共同研究者 1 名で、IODP の目的と本航海における各自の研究目的の確認や、共同研究の可能性についての議論、そして船上での生活や研究に関する経験の共有を行った。報告者は乗船と堆積物を用いた研究の経験がなく、自分のサンプルリクエストの内容を紹介し、知識や考察が不足している部分について多分野からの視点でご指摘いただけたことで、今後研究を進める上での課題を明確にすることができた。また、先輩研究者の研究の背景や乗船中の経験を直接お聞きし、実際の航海のイメージをつかむことができた。</p> <p>今後は、10 月の乗船に備えて、8 月に行われる古地磁気分野のコアスクールに参加し、実際の試料や機器の取り扱いに触れ、習熟することを目標とする。また、先行研究のレビューを通じて堆積物における古地磁気復元に関する知識を獲得するとともに、具体的な研究手順や他分野の研究者に依頼するデータの時間分解能などについて、指導教官や共同研究者と議論しながら決定する予定である。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。